

香川県三豊市（国内6例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る
疫学調査チームの現地調査概要（令和2年11月20日実施）

令和2年11月20日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、5例目の農場と互いに隣接しており、1例目の農場から約1.5 km、3例目の農場から約2.5 km、4例目の農場から約2.3 km離れた丘陵地の中腹に位置し、付近は雑木林に囲まれていた。
- ② 当該農場と疫学関連農場である2農場は隣接しており、また、一般道を挟んだ反対側には、別の関連農場が2農場あった。
- ③ 当該農場にはウインドレス鶏舎が2階建てのウインドレス鶏舎が5棟あり、発生時すべての鶏舎で採卵鶏が飼養されていた。発生鶏舎は農場の入り口側に位置する鶏舎の1階部分であった。

2 通報までの経緯

- ① 1例目、3例目及び5例目の発生に伴い実施した周辺農場検査において、陰性が確認されていた。
- ② 管理人によると、発生鶏舎は5棟ある2階建て鶏舎の1階で、11月19日に鶏舎の中央付近において死亡鶏が認められており、複数の列にて、それぞれの場所で複数ケージに渡って、数羽ずつ認められたとのこと。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場には8名の従業員がおり、うち1名は毎日、鶏舎において鶏の健康観察を行うとともに、死亡鶏を回収して、農場内の焼却施設にて焼却していた。
- ② 当該従業員1名は隣接する関連農場においても、鶏の健康観察、死亡鶏の回収及び処理を行っていた。
- ③ その他、農場敷地内にある集卵施設で集卵作業を行う従業員6名、鶏糞の処理のみを行う従業員1名がいるが、いずれも鶏舎には入らないとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 管理人によると、従業員は農場専用の長靴と手袋を使用し、鶏舎に入る際には踏み込み消毒を実施し、長靴を交換していたが、手袋の交換及び手指消毒はしていなかった。
- ② 鶏舎横には飼料タンクが設置されているが、当該タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低いと考えられた。
- ③ 飼養鶏への給与水は、塩素消毒した地下水と、水道水を農場内の貯水タンクに貯蔵し、各鶏舎に供給していた。
- ④ 鶏舎から排出された鶏糞の処理施設には防鳥ネットは設置されていなかった。
- ⑤ 管理人によると、鶏舎ごとにオールイン・オールアウトを行っているが、現在、当該農場で飼養されている鶏群は、当該農場の設置後、初めて導入した鶏群であり、出荷したことはないとのこと。
- ⑥ 車両が当該農場に出入りする際、農場入口に設置された動力噴霧器により消毒を行っていた。
- ⑦ 集卵施設は鶏舎と別棟になっており、集卵業者が鶏舎内に入ることはなかった。
- ⑧ 発生鶏舎の鶏舎構造は、片側の壁面に設置された換気扇から排気し、反対側の壁面に設置されたフィルターから入気するタイプの鶏舎であった。換気扇には開閉可能な板が設置されており、換気扇が停止する際にはこの板が閉まる。

5 野鳥・野生動物対策

- ① 発生鶏舎は、設置から間もないことから、壁面等に損傷は認められなかった。鶏舎から集卵ベルトが外へ出る開口部はカバーで覆われていた。鶏糞を運ぶベルトの開口部に隙間は確認できなかった。
- ② 現地調査時には、発生鶏舎内にネズミのものと思われる足跡が確認された。